

公益社団法人 日本設計工学会

電子ジャーナル 論文・ノート 執筆要項

1. 適用範囲

本執筆要項は、公益社団法人日本設計工学会（以下、「本会」という）が発行する電子ジャーナルへ記事を投稿する際、原稿を作成する場合に適用する。

2. 記事の分類と標準ページ数

記事の分類は、論文・ノートとし、標準ページ数、上限ページ数は表1に示す通りである。

3. 用紙

3.1 原稿フォーマット

日本設計工学会指定の原稿投稿フォーマット（A4 縦置き）を本会「論文投稿」のページ（<https://www.jsde.or.jp/shuppan-j/submission.html>）よりダウンロードして使用し、図表などを挿入し、割付け（レイアウト）を行って作成する。ただし、図表（文字も含む）は鮮明（例えば画像データであれば、600DPI以上を推奨）なものでなければならない。

3.2 版下の作成方法と提出物

(1) 著者自身が版下を作成する場合

提出はpdf形式とする。ただし、版下としての使用の可否は本会で判断する。

(2) 本会に版下作成を依頼する場合

上記(1)の方法に準じるが、pdfファイルを作成した元の文書ファイルおよび図・表の一般的な画像ファイル（bmp, jpg, tiff等）も提出する。

4. 原稿の構成

原稿の構成と記述の方法は以下による。

4.1 題名

題名は、執筆内容を簡潔・明確に表すものとし、必要に応じて副題を付してもよい。ただし、商品名など自己宣伝となるような題名や、非常に一般的で書物の題名となるようなものは避ける。なお、和文論文の場合には、英文題名を必ず併記する。

副題は、和文、英文とも（ ）で囲む。続報として番号を付す場合は、（第1報、・・・）および（1st Report, ...）のようにする。

4.2 概要(アブストラクト)

本文1ページ目に英文概要を記述（別紙の投稿原稿割付見本を参照）する。英文概要は200語程度とし、途中改行しない。インデントも付けない。また、本文中の図表や文献を引用しない。なお、式が必要な場合は、式番のみを引用するのではなく、式そのものを記述する。

4.3 キーワード

(1) 論文には、5～10語の英語によるキーワードを記載する。

(2) キーワードは原則として論文題目と英文概要から選択する。

(3) キーワードは、具体的かつできるだけ狭義の意味をもつ名詞形の語句を選ぶ。

(4) キーワードの先頭文字には小文字を使用する。

4.4 本文

(1) 本文（図、表および写真の説明を含む）は、読者にその内容が分かりやすく、正しく理解できるような表現を使用する。

(2) 本文は、和文においては、簡潔な口語体とし、常用漢字および現代かなづかいを用いる。英文においては、英語、または、米語に統一する。

(3) 本文は、適宜区分して見出しを付け、読みやすくする。本文の章に該当する見出しは3行分をとって左寄せで記載する。節に該当する小見出しは、1行空けて左寄せし、次行に1字あけてから本文を記述する。項に該当する見出しは行の左端より記載し、次の行から1字あけてから本文を書く。

(4) 長い文章は避け、段落を適当に設けて、読みやすくする。新しい行の初めはインデントを付ける。

4.5 その他

(1) 本会の会誌・電子ジャーナルに英語記事が掲載済みの内容を、和訳して投稿する場合、その掲載済みの記事を参考文献の先頭番号文献として必ず表示すること。また、参考資料としても提出のこと。さらに、本文1ページ目下脚注に、別紙の割付見本に応じた表示を行うこと。和文記事を英訳して投稿する場合も同様である。

(2) 本会が主催・共催した研究発表講演会において発表した講演論文を基礎にした原稿を、論文として投稿する場合、その内容を参考文献の先頭番号文献として必ず表示すること。また、参考資料としても提出のこと。さらに、本文1ページ目下脚注に、別紙の割付見本に応じた表示を行うこと。

5. 文字および用語

5.1 文字および句読点

- (1) 文字は黒色により表記する。
- (2) 和文の文章区切りには、全角の読点（、）や全角の句点（。）を用い、それぞれ1字分とする。また、同格の単語を並べる場合は、中点（・）を使用する。

5.2 文字の大きさ

文字の大きさは、本文、図表名および図表内の文字・数字・記号とも10ポイントとする。なお、図中の文字・数字・記号に限り、幾分小さくなくてもやむを得ないが、最小でも8ポイント以上とする。

5.3 用語

- (1) 用語は、原則として、和文の場合は、文部科学省編「学術用語集」、または、「JIS用語集」、英文の場合には「ISO用語集」に従う。また、特殊用語は、注（*¹・*²・・・、上付き）を該当箇所につけ、その原稿用紙の下の行に脚注を付けるか、対応する外国語を該当箇所のあとに括弧付で示す。
- (2) 年号は、本年、昨年などとすると誤解を招きやすいので、2001年のように西暦で具体的に記載する。
- (3) 和文においては、外国の地名、人名、書名などは原綴りで書く。ただし、一般化されているものはカタカナでよい。
例：アメリカ、ポアソン比
- (4) 略語を使用する場合は、普通名詞、固有名詞にかかわらず、原語で記載する。また、一般に周知されていない略語を使用する場合には、最初に使用した箇所で正確な原語を付記する。

6. 数字および数式

6.1 数字

- (1) 数量や序数を表す数字はアラビア数字を使用し、和文において、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する。
例：10m, 図1, 表12
三角形, 数百例, 一条ねじ
一つの, 二, 三の例, 一例をあげると
- (2) 小数点
小数点は、0.123のように書き、.123のように書かない。

6.2 数式

- (1) 数式を文中に書く場合には、下記の形式Aに示すように、1行におさまる表記法を用いる。行を改めて数式だけを書く場合には、できる限り形式Bを使用する。また、必要に応じて式番号を括弧内（右寄せ）に付ける。

形式A	形式B
$(a+b)/(c+d)$	$\frac{a+b}{c+d}$

- (2) 文中に式番号を記載するときは、式(1)、式(2)・・・のように書く。

7. 単位・量・数学・化学記号

7.1 単位・量記号

単位および量記号は、原則として SI (International System of Units) による。一般に、単位は立体、記号はイタリック体で表現する。

7.2 数学記号

数学記号は、和文の場合には「JIS Z 8201」（数学記号）、英文の場合には「ISO 31/XI Mathematical signs and symbols for use in the physical sciences and technology」による。

7.3 化学記号

化学記号は「ISO 31/8」、 「ISO 31/9」等による。

8. 図（写真を含む）および表

8.1 図表の選択

図（写真を含む）および表は、類似のものが重複しないように十分検討し、本文を理解するために必要な代表的なものに限定するとともに、その内容を本文中で詳細に言及し、読者が十分に理解できるようにしなければならない。

8.2 図番および図名と表番および表名

- (1) 図番または表番は英語あるいは日本語で記述するが、一つの前稿中ではどちらかに統一する。英語で記述する場合の図番および表番はそれぞれFig. 1, ..., および, Table 1, ...のように通し番号とし、日本語で記述する場合の図番・表番は、それぞれ図1, 表1のようにする。本文で図または表を引用する場合

は、いずれの場合も図1, . . . , 表1, . . . とする。

- (2) 図名・表名の言語は、著者が選択した図番・表番の言語に合わせる。（英語を推奨する）。
- (3) 図番および図名は図の下部に、表番および表名は表の上部に書く。

8.3 図の描き方

- (1) 図の描き方は、原則として、和文の場合には「JIS B 0001」および「JIS Z 8310」、英文の場合には対応するISO規格による。
- (2) 写真は図に準じ、明瞭なものでなければならない。写真の図番は、他の図と一連番号とする。例えば画像データであれば、600DPI以上の高精細なものを準備する。

8.4 表の書き方

版下作成方法の如何にかかわらず、表（表の内容として図がある場合も含む）は、上記「図の描き方」に準じる。

8.5 不鮮明な図および表

不鮮明な図および表に対しては、本会から再提出を指示することがある。また、本会の判断で図および表のトレースを印刷所に依頼することがある。この場合、掲載料とは別に実費を徴収する。

9. 引用・参考文献と著作権

9.1 文献の選択

引用・参考文献は、特に必要とするものにとどめ、一般に公表されていない文献および永続性のない情報源、例えば配布を限定された委員会報告や社内報告およびWebのホームページなどは、やむを得ない場合を除き引用文献としない。

9.2 著作者の許諾を得ずに引用できる範囲

執筆しようとする記事のなかで、他の著作物（文献）を引用する際は、以下の二つの条件を同時に満足する場合を除き、原則として事前に当該文献の著作者の許諾を得なければならない。

- (1) 自分の著述が〈主〉で、引用部分が〈従〉である場合。本会記事の場合、論文、ノートがこれに相当する。
- (2) 引用の目的が公正な範囲を逸脱していない場合。すなわち、自分の意見を補強したり、他人の意見を批評したりする等の目的で引用する場合。

9.3 文献を引用する際の履行義務

他の著作物を引用するにあたっては、許諾の必要性の有無に拘らず、以下の事項を厳守しなければならない。

- (1) 出所（書誌事項）を明示すること。この際、連名の著作者を一人で代表させたり、題目を省略したりすることは、著作者人格権の立場から好ましくない。
- (2) 引用箇所を明確にすること。ただし、要約、翻訳による引用は認められる。
- (3) 図表の転載は原則として原図のまま使用し、図表名の直後に〔文献*〕より転載〕等と記述すること（*は文献番号）。ただし、図表の場合、翻訳による引用は認められる。

9.4 本文中の記載方法

引用・参考文献は、通し番号を付け、本文の該当箇所に上付き添字¹⁾または²⁾・³⁾あるいは⁴⁾~⁸⁾のように示し、本文の末尾に「参考文献」あるいは「文献」としてまとめて記載する。

9.5 引用・文献の記載方法

(1) 雑誌の場合

著者名：題目、雑誌名、巻、号（西暦発行年）、ページの順に記載し、著者名は連名者も含めて全員の姓と名を次の例にしたがい記載する。

- 1) 設計太郎, 製図花子:CAD設計論, 設計工学, 23, 12(1994), 11.
- 2) Boyd, J., Jones, P. and Raimondi, A. A.:Bearing Theory in Analysis and Design of Journal Bearings, J. Appl. Mech., 73, 2(1951), 298.

(2) 書籍の場合

著者名, 著者名:書籍名, 発行所, (西暦発行年), ページの順に次のように記載する。

- 1) 製図花子:機械設計製図の実際と理論, 川三書房, (1978), 132.
- 2) Douglas, R.:Introduction to Mechanics, Wadsworth Pub. Co., (1963), 53.

(3) 和訳書籍の場合

著者名, (訳者名):書籍名, 発行所, (西暦発行年), ページの順に次のように記載する。

- 1) Seizu, H. R., (設計太郎訳):機械製図入門, 川三書房, (2000), 33.

(4) オンラインジャーナルの場合

- 1) Sekkei, H.: Design Engineering for ABC, Design Engineering, JSDE, 50, 1, (2014), 520. (online), available from <https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsde/49/1/49_30/****.pdf>, (accessed 2014-01-21).

10. 原稿の提出から発行まで

10.1 原稿の提出

表2に示す必要なファイルを準備し、online投稿システムにより電子投稿する。

10.2 原稿受付日

原稿がonline投稿システム上で本会に到着した日を原稿受付日とし、著者（代表者）に受理メールを送る。投稿規程および本執筆要項を満足しない原稿は事務的に返却し、満足する原稿が到着した日を改めて原稿受付日とする。

10.3 校閲，照会

投稿された原稿は、本会の校閲基準に基づいて校閲する。その結果、本会が必要と認めた場合には、内容、記述などについて著者照会することがある。著者照会后、本会発送日より2ヶ月を経過しても著者から回答がない場合は、前述の原稿受付日は無効とする。

10.4 正原稿の提出

校閲が終了した時点で本会より指示があるので、正原稿を提出する。

10.5 著者校正および各種料金の払込み

著者校正は、原則として初校のみとする。原稿掲載後、掲載料、別刷料（別刷が必要な場合、著者校正刷り返送時に申し込む）の請求書が送付される。学会からの指示にしたがって、1ヶ月以内に払込みを行うこと。

1.1. 適用期日

この執筆要項は原稿受付日が2021年4月1日以降の投稿から適用する。

表1 学会誌記事の種別と標準（上限）ページ数

分類	種別	内 容	標準 (上限) ページ数
論文 ・ ト	論文 Paper	設計工学に関連した研究成果、技術的成果、開発的成果、教育的成果など。なお、従来から研究発表講演会論文をベースとして日本語論文が投稿できるように、本会が主催・共催する国際会議のProceedingsに掲載された講演論文（英語）を、日本語で表現したもの。	6～12 (20)
	翻訳論文 Translated Paper	本学会誌に掲載済みの英語論文を、日本語に翻訳したもの	
	ノート Note	論文に準ずるもので、独創的で速報性を有し、断片的に見出された新しい概念や事実の報告など、将来設計工学の発展に寄与するもの	
	翻訳ノート Translated Note	本学会誌に掲載済みの英語ノートを、日本語に翻訳したもの	

表2 投稿時における提出物

(原稿表紙、投稿料の支払いが分かる資料、校閲参考資料、原稿本文、参考資料の順に準備すること)

項 目	備 考
原稿表紙	原稿表紙は本会所定の用紙
投稿料振込資料	領収書のスキャンによる画像ファイル
原稿	pdfファイル。割り付け見本を参照
参考資料*	例えば、次のようなもの。 ①著者版下の場合には、原稿のワードファイル等 ②続報として投稿する場合で、前報が掲載可となっているが、それが掲載前の場合はその最終的な正原稿 ③複数報を同時投稿する場合の、もう一方の原稿 ④原稿内容の元になっている日本語講演発表論文やProceedingなどがある場合、そのコピー ⑤その他必要に応じて

*引用文献の中に一般に入手困難な刊行物（社内報、委員会報告など）が含まれる場合や、投稿論文の内容と既発表論文との間に部分的な重複があつて、投稿規程2.2に定めた原著確認について、著者自身が判断しかねる場合に添付する。

学会が定めている書式は、本会ホームページの「論文投稿」の「2. 論文投稿関連文書ダウンロード」からダウンロードできる。

詳細や最新の状況は、本会ホームページの「論文投稿」のページで参照できる。

投稿論文等の評価項目・評価内容

全種別に共通する評価項目 (ただし、翻訳論文・翻訳ノートには適用しない)		① 分野の妥当性, ②記述の妥当性, ③信頼性
種の別評	論文 (研究)	④独創性または新規性, ⑤工学的または工業的有用性, ⑧完結性 I
	論文 (教育)	④独創性または新規性, ⑥教育的寄与, ⑨完結性 II
ご価	翻訳論文・翻訳ノート	⑩翻訳の正しさ
と項 目	ノート (研究)	④独創性または新規性, ⑤工学的または工業的有用性, ⑦将来的発展性
	ノート (教育)	④独創性または新規性, ⑥教育的寄与, ⑦将来的発展性

評価項目		評価内容
①	分野の妥当性	論文等の内容は日本設計工学会で扱うものとして適当か。
②	記述の妥当性	論文等の位置づけは明確か。表現は正確か。理解困難な表現はないか。文献引用は適切か。
③	信頼性	内容に矛盾や誤りはないか。論理の展開に無理はないか。
④	独創性 または 新規性	従来にない新しい考え方, 理論, 実験事実, 技術, 方式, 製品の開発または教育論, 教育手法, 教育事例等が示されているか。あるいは従来のものに, 意義のある成果を付与しているか。本人あるいは他人らによって, すでに日本語や英語によって記述された論文として公表されていない内容であること (ただし, 本会誌に掲載済みあるいは掲載が決定している英語記事の内容を和訳した場合は除く)。
⑤	工学的有用性 または 工業的有用性	論文等の成果が工学あるいは工業分野で理論・技術の発展, 知見の拡大, 製品の性能向上に寄与しているか。
⑥	教育的寄与	論文等の成果が工学教育面・工業教育面において有用であるか。教育効果の向上を期待できるか。
⑦	将来的発展性	得られた理論, 技術, 知見, 手法等が工学・工業・教育分野において将来的発展・拡大に寄与する可能性があるか。
⑧	完結性 I	論文の内容に, 理論, 知見, 技術等のまとまった成果が得られており, 独立したものとして評価できる段階に到達しているか。
⑨	完結性 II	教育的効果に対する十分な考察がなされているか。
⑩	翻訳の正しさ	英語から日本語への翻訳が正しく行われているか (あるいは日本語で表現することで, さらに理解しやすくなっているか)。